

松阪女短大○上島雅子 三重短大 伊藤五子 岐阜大 中野刀子
 東海学園女短大 西條セツ 岐阜女短大 山田令子

目的 衣生活は多様化、個性化が進んでいるとされながら、半面、服装の画一化の傾向もあるといわれている。現在の若い人は真に自由な考えで衣服を選択し、更にその形態は簡略化の傾向にあると考えてよいだろうか。

第1報では、多様な着用方法がみられたが、本報では、現代の女子学生はどのような基準で服装を整え、また着心地では何を求めているかについて調査した。

方法 調査対象、時期、内容は第1報と同じ。着用基準、着用服種の着心地を加えて調査した。

結果 ①服種別にみた着用基準 体型補正の目的に着用されるブラジャー、ガードル類は整容面、肌に触れるスリッパ、スリーマ類は生理衛生面、上衣は心理面が重視されていた。②服種別にみた着心地 ブラジャー、ガードル類は運動性、スリッパ、スリーマ類は材料物性、外衣は心理的着心地のよさが目立った。

以上のように服種別では常識的な解答であったが、更に一人一人が着装されたものについて、被服の機能から検討した詳細について報告する。